

司書雑感

本学図書館の 「データベース・ノーベル文学賞」について

奥 正敬

昨年のノーベル文学賞は、南アフリカ出身の作家ジョン・マックスウェル・クツェーが受賞しました。このノーベル賞は1901年に創設されたもので、2001年には100周年を迎えています。

中でも、文学賞は戦争などで受賞者がなかった年や複数で受賞者が選ばれた年もありますが、受賞辞退者を含めて昨年のクツェーで丁度100人目の授賞決定者となりました。

国と言葉の境界を越えた世界文学

この文学賞について提唱者であるアルフレッド・ノーベルは、「理想主義的傾向の最も優れた作品を創作した人物に」という遺言を残しています。この遺志に基づく過去の授賞理由では、国と地域の文化的特徴や社会矛盾の実態を背景にした表現手法について評価されていることが多く、結果的には世界の人たちの相互理解と平和希求に大きく貢献してきたものといえます。こうしたことから、ノーベル文学賞の受賞者作品は「国と言葉の境界を越えて人々を結びつける世界文学」とも言われ、本学の建学の精神である“Pax Mundi per Linguas”（言語を通して世界の平和を）にも通ずる崇高な思想の表現であると考えられます。

100人目の受賞者が選ばれたことをお祝いして

本学図書館は100人目の受賞者が選ばれたことをお祝いして、「データベース・ノーベル文学賞」を作り、スウェーデンのストックホルムで授賞式が行われた12月10日からホームページで公開しています。（前ページに写真掲載）

これは、1901年の受賞者シュリ＝ブリュム（フランス）から、昨年のクツェーまでの本学図書館の所蔵作品が洋書と日本語翻訳本（和書）に分けて検索できるもので、我が国の他の図書館では例を見ないものです。

数少ない日本語に翻訳された作品

このデータベースから検索できる作品の数は、

日本語翻訳本1,358冊、洋書2,099冊、合計3,457冊にのぼります。本学図書館では、これまでに受賞者の作品を積極的に収集してきましたが、「国と言葉の境界を越えて……」とまで形容される文学でありながら、我が国では作品の翻訳が少なく、受賞者1人につき1点しか日本語になっていないこともあります。また、100人の受賞者の中で2名分の日本語翻訳本は、納本図書館である国立国会図書館でも所蔵を確認することができません。洋書については、受賞者1人あたり最低でも3作品を収集しており、その結果、このデータベースでは洋書の冊数が日本語翻訳本を上回っています。

海外で人気の高い日本人受賞者の作品

ちなみに、これまでに受賞した2人の日本人の作品は、受賞以前から同胞の文学者の作品と共に数多く外国語に翻訳されています。これは、世界の人々がジャパノロジー（日本研究）に寄せる関心の高さと無縁ではなく、受賞にとって有利に働いたものと思われま。翻訳されている言語は、英語をはじめ、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、イタリア語、ロシア語など世界の主要な言語に及び、その内このデータベースに収録している数は、1968年受賞の川端康成が66冊、1994年受賞の大江健三郎は44冊となっています。

作品が広く読まれることを願って

本学図書館では、学生の皆さんや教職員の方々をはじめ、生涯学習のために「市民利用制度」へ登録された学外の人たちにもこのデータベースをお使いいただき、ノーベル文学賞の受賞者作品を通じて、世界の人々の心を広く理解するために役立てていただきたいと思っています。

さらに、本学図書館は今後も受賞作家の作品をできるだけ多く収集してこのデータベースを充実させ、他の図書館に同種のコレクションがない限りは、我が国における「ノーベル文学賞の文献センター」的な価値を高めてまいりたいと考えていますので、皆様方のご理解とご支援を宜しくお願い致します。

おく まさよし

（司書・事務長兼管理運営課長）